七月文月は青緑色

奥村 俊三

子規の句に「若鮎は二手になりて上りけり」がある。伊予松山の川を力強く上る若鮎の群れに、子規は朋友との別れの寂しさと前途への希望を詠んだ。川の透明感と若鮎の躍動感がきらきらと伝わってくる。

鮎は清流を好む。海から川へ、さらに渓谷へと遡上し、谷間の冷たく澄んだ水、豊かな森から注ぎ込まれる栄養、そしてたっぷりと太陽の光を浴びた石の表面に育つ「コケ（珪藻)」を食べて成長する。やがて迎えた七月、青緑色に澄んだ清流を泳ぐ若鮎は最も美味しい季節となる。涼を求めて渓谷を眺め、若鮎を食する、そんな夏の醍醐味がここにある。

写真は日本一の清流、宮川の上流（三重県）